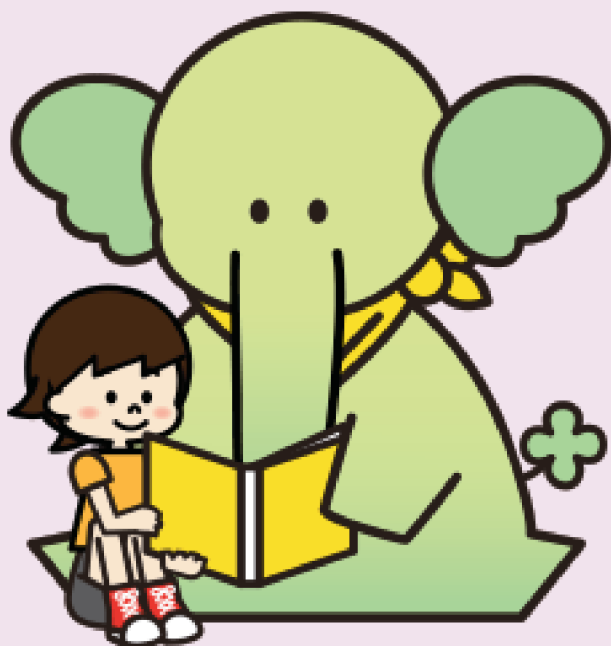


子どもが安心できる校内教育支援センター設置 及び促進を目指す事業報告書

えぬ びー おー ほうじん こ けんり
NPO法人 子どもの権利オンブズパーソンながさき



山田助成

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

令和6年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

はじめに

昨年度に引き続き、4年連続で事業に取り組むことができました。これまでの実践にしっかりと軸足を置きながら、総括のような1年間だったと思います。

今年度からは長崎県内でも地域の教育委員会主導による校内教育支援センター設置事業が始まりました。まだまだ全県下で、とはなっていませんが、次年度はより広まりを見せるようです。その流れの中で、今年度は長崎市の事業の別室支援員をされている方々と様々な機会でお会いすることができました。同じ学校で支援を行っている時には、学校も含めた校内別室支援に関わる人たちで協議の機会もいただきました。とても学び多い時間でした。

そのような場で改めて感じたのは、専門家を交えた定期的なミーティングの重要性でした。私たちは事業初年度から毎月1回校内別室支援員のミーティングを行っています。2年目からは専門家を交え、今年度からは本格的にミーティング内容を記録しています。記録は支援員で共有し、前月の関わりを振り返りながら、支援を行えるようにしています。ミーティングで大切にしていることは、支援員を支える機会にする、ということです。日々様々な葛藤を抱え子どもたちと向き合っている支援員はしんどくなりがちです。ミーティングの場はそのようなしんどさの軽減につながっていると思っています。

この事業に関わっていただいた皆様、関わってくれた子どもたち、本当にありがとうございました。

NPO 法人子どもの権利オンブズパーソンながさき

代表理事 古豊 慶彦

※この事業の事業報告動画を当法人のYouTubeチャンネルにて公開しています。右のQRコードもしくは当法人のHPから視聴できます。



当団体について

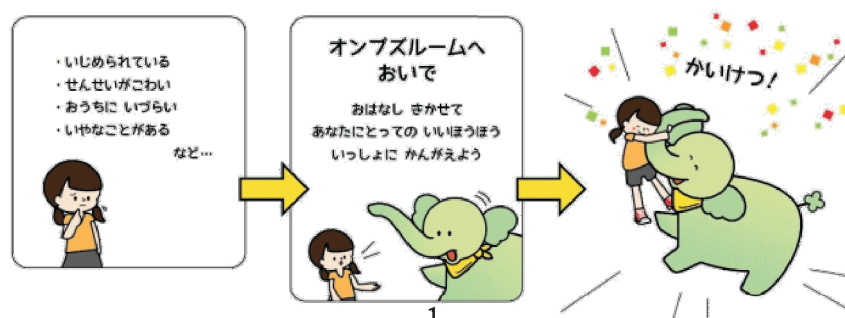
私たちは子どもに関する相談支援事業を行うとともに、子どもの権利条約の周知、子どもに関する制度や施策への提言などを行い、子どものいのちと権利が大切にされ、子どもが安心して SOS を発信することができる社会の実現に寄与することを目的として活動しています。

主な活動

個別救済…毎週3日相談窓口を開所し、子どもに関する相談を受けつける。特定の子どもの権利侵害等の解消を目指し、相談支援や関係調整を行う。

制度改善…個別救済の他調査等によって子どもに関する社会的課題等を明確化し、制度等によって課題解消されるよう関係機関等にはたらきかける。

子どもの権利オンブズパーソンながさきとは…



I 子どもが安心できる校内教育支援センター設置及び促進を目指す事業 概要

1)概要

校内教育支援センターが“学習支援”や“学級復帰支援”を中心とした既存の対応ではなく、関係づくりを基本としたケア【休息や回復、安心感の醸成】の視点を重視する「学習よりも子どものケアが優先される場所」となることを目的に、実践を積み重ねるために「これまで取り組んできた別室支援を継続」しながら、実践別室支援に必要な知識・実習等を誰もが学ぶことができるように「子どもの権利保障を中心とした研修プログラムの開発」と、校内教育支援センター及び支援員の導入前の共通理解や疑問解消に事前につながるように「校内教育支援センターの役割やその場において欠かせない視点等をまとめたプロモーション動画の制作」を行う事業

2)事業に取り組む背景

令和4年度の調査で全国の小・中学校の不登校児童生徒数が過去最多の約30万人となったことを受け、文科省は令和5年10月17日に緊急に通知を出し「校内教育支援センター（いわゆる校内別室）の未設置校への設置促進」も盛り込まれた。

当法人の別室支援事業（R4WAM 補正）で実施した教員へのアンケートでは“学校内別室に支援員が入る必要性を感じる”という回答が約93%と高く、別室の必要性は示されているものの、理由として上がるのは「教員だけで対応するのが難しい」「人手が足りない」等の現状である。別室は教育支援センターやフリースクール等学校以外の支援を選択できない環境にある子どもが多く利用し、学校や教室に行きづらくとも別室があることによって、最低限の日々の行き場としても機能している。

国の方針、現場の声、そして何より子どもたちの声から、長崎市は別室支援員の募集を開始する等、行政主導で次年度からの制度化に向け動き出している。しかし「必要性を感じる」が「人手不足」という現状から、“まずは形を作る”という側面が強く、別室が果たすべき役割が十分に認知・周知されないまま開始されることに危機感を抱いている。

こどもの居場所づくりに関する検討委員会が実施したアンケートでは、現在居場所がない子どもの約64%が「居場所が欲しくない」と回答し、居場所がない子どもの多くはそれ以上を望まないことが明らかになった。つまり、安心できる居場所利用や安全な関係形成の経験の有無が、後の人生における援助希求に影響するのである。

教室に入れず別室を利用する子どもの中には、体調不良を訴えたり、「早く家に帰りたい」と何度も口にする子どもがいる。それは“別室に来る＝抱えている「学校（教室）への行きづらさ」が解決しているわけではない”からである。そのような子どもたちには“学習支援”や“学級復帰支援”を中心とした既存の対応ではなく、関係づくりを基本としたケア【休息や回復、安心感の醸成】の視点を持って関わる必要がある。しかし、校内教育支援センターの「学習よりも子どものケアが優先される場所」という役割の重要性が認知されていない。

3)事業実施体制

運営事務局：事務局長…古豊慶彦（代表理事） 会計…中村結花（理事）

事務局…居村弘子（理事）・古豊史子（理事）・森田知美（理事）・安達和美（理事）

伴走支援者：石川衣紀さん（長崎大学教育学部准教授）

山岸利次さん（長崎大学教育学部准教授）

外部評価団体：認定NPO 法人アカツキ様（福岡県）※NPOを対象とした伴走型コンサルティング等



Ⅱ 「学校内別室への支援員派遣事業」

1)目的

これまでの支援員派遣の継続及び新規に1校を加えることはできたが、事業申請時に目標としていた行政主導の別室へサポートとして入る「フォロー派遣」は実施できなかった。

2)内容

今年度は前年度から継続して実践している長崎市立小・中学校各1校ずつ、西海市の公立小学校1校、佐々町の公立中学校1校に、新たに長崎市立小学校を1校加え、計5校で実践した。支援員は前年度からの継続が8名（当団体理事含む）、新たに7名の計15名で実施した。

3)実施スケジュール

日にち	実施内容
4月4日(木)	長崎市教育研究所へ事業報告と事業継続に関する打ち合わせ
4月8日(月)	前年度からの継続学校(長崎市立小学校)と事業継続に関する打ち合わせ
4月11日(木)	前年度からの継続学校(長崎市立中学校)と事業継続に関する打ち合わせ
4月12日(金)	西海市教育委員会へ事業報告と事業継続に関する打ち合わせ 長崎県教育庁児童生徒支援課へ事業報告と今年度の事業計画に関する打ち合わせ
4月19日(金)	佐々町教育委員会へ事業報告と事業継続に関する打ち合わせ
4月22日(月)	長崎市教育研究所主催校内別室支援員オンライン研修へ参加
4月24日(水)	今年度からの新規学校(長崎市立小学校)と事業に関する打ち合わせ
4月30日(火)	校内別室支援キックオフミーティング(オンライン)
4月実践日数	佐々町立中学校:6日(日にち→10・12・17・19・24・26)
5月7日(火)	長崎市立の小学校【新規】で実践開始
5月9日(木)	長崎市立の小学校で実践開始
5月10日(金)	長崎市立の中学校で実践開始
5月23日(木)	西海市教育委員会、西海市社会福祉協議会と西海市での支援員募集に関する打ち合わせ
5月25日(土)	支援員ミーティング【緊急】
5月26日(日)	2024年度学校内別室支援員募集説明会【対面】
5月27日(月)	2024年度学校内別室支援員募集説明会【オンライン】
5月28日(火)	支援員ミーティング【定例】
5月実践日数	長崎市立小学校:6日(日にち→9・13・16・23・27・30) 長崎市立小学校【新規】:4日(日にち→7・14・21・28) 長崎市立中学校:7日(日にち→8・10・17・22・24・29・31) 佐々町立中学校:9日(日にち→1・8・10・15・17・22・24・29・31)
6月5日(水)	佐々町立中学校支援員が長崎市立中学校での実践を見学
6月19日(水)	佐々町立中学校支援員ミーティング&学校との協議
6月25日(火)	支援員ミーティング【定例】
6月30日(日)	支援員ミーティング【緊急】
6月実践日数	長崎市立小学校:8日(日にち→3・6・10・13・17・20・24・27)

	長崎市立小学校【新規】:4日(日にち→4・11・18・25) 長崎市立中学校:7日(日にち→5・7・14・19・21・26・28) 佐々町立中学校:7日(日にち→7・12・14・19・21・26・28)
7月5日(金)	竹田雄亮長崎市議会議員が長崎市立中学校での実践を視察
7月7日(日)	2024年度西海市学校内別室支援員募集説明会【オンライン】申込者0のため中止
7月8日(月)	2024年度西海市学校内別室支援員募集説明会【オンライン】申込者0のため中止
7月12日(金)	長崎市立中学校で長崎大学教育学部見学に行く
7月17日(水)	佐々町立中学校支援員ミーティング
7月30日(火)	支援員ミーティング【定例】
7月実践日数	長崎市立小学校:5日(日にち→1・4・8・11・18) 長崎市立小学校【新規】:4日(日にち→2・9・10・16) 長崎市立中学校:5日(日にち→5・10・12・17・19) 佐々町立中学校:6日(日にち→3・5・10・12・17・19)
8月3日(土)	校内別室支援員団体内研修 講師と事前打ち合わせ
8月21日(水)	支援員ミーティングの持ち方について石川さん・山岸さんとミーティング
8月31日(土)	校内別室支援員団体内研修 「遊びや運動が荒い子どもの対応について」 講師:菅達也さん(鎮西学院大学総合社会学部社会福祉学科特別支援教育コース教授)
8月実践日数	佐々町立中学校:2日(日にち→9・28)
9月3日(火)	長崎市校長会生徒指導部会にて実践報告
9月4日(水)	白川あゆみ長崎県議会議員が長崎市立小学校【新規】での実践を視察
9月11日(水)	佐々町立中学校支援員ミーティング
9月19日(木)	西海市立小学校実践開始に向けた事前打ち合わせ
9月20日(金)	支援員ミーティング【緊急】
9月24日(月)	小学校支援員ミーティング【定例】
9月26日(木)	中学校支援員ミーティング【定例】
9月実践日数	長崎市立小学校:6日(日にち→5・9・12・19・26・30) 長崎市立小学校【新規】:8日(日にち→3・4・10・11・17・18・24・25) 長崎市立中学校:7日(日にち→4・6・11・13・18・20・27) 佐々町立中学校:8日(日にち→4・6・11・13・18・20・25・27)
10月18日(金)	佐々町立中学校支援員ミーティング
10月29日(火)	中学校支援員ミーティング【定例】
10月31日(木)	小学校支援員ミーティング【定例】
10月実践日数	長崎市立小学校:8日(日にち→3・7・10・17・21・24・28・31) 長崎市立小学校【新規】:10日(日にち→1・2・8・9・15・16・22・23・29・30) 長崎市立中学校:7日(日にち→2・4・9・11・18・23・25) 佐々町立中学校:9日(日にち→2・4・9・11・16・18・23・25・30) 西海市立小学校:2日(日にち→22・30)
11月21日(火)	支援員ミーティング【緊急】
11月26日(火)	中学校支援員ミーティング【定例】
11月28日(木)	小学校支援員ミーティング【定例】
11月実践日数	長崎市立小学校:6日(日にち→7・11・14・18・21・28)

	長崎市立小学校【新規】:8日(日にち→5・6・12・13・19・20・26・27) 長崎市立中学校:8日(日にち→1・6・8・15・20・22・27・29) 佐々町立中学校:9日(日にち→1・6・8・13・15・20・22・27・29) 西海市立小学校:6日(日にち→5・6・12・13・19・26)
12月16日(月)	校内別室協議 長崎市立小学校【新規】
12月18日(水)	令和6年度長崎県「子育て支援員研修」見学実習生1名受け入れ(長崎市立小学校) 支援員ミーティング【緊急】
12月20日(金)	長崎市立中学校で長崎大学教育学部見学に行く
12月26日(木)	中学校支援員ミーティング【定例】
12月27日(金)	佐々町立中学校支援員ミーティング 小学校支援員ミーティング【定例】
12月実践日数	長崎市立小学校:7日(日にち→2・5・9・12・16・19・23) 長崎市立小学校【新規】:6日(日にち→3・4・10・11・17・18) 長崎市立中学校:4日(日にち→6・11・13・20) 佐々町立中学校:6日(日にち→4・6・11・13・18・20) 西海市立小学校:5日(日にち→3・10・11・17・18)
2025年	
1月4日(土)	支援員ミーティング【緊急】
1月12日(日)	支援員ミーティング【緊急】
1月28日(火)	小学校支援員ミーティング【定例】
1月31日(金)	中学校支援員ミーティング【定例】
1月実践日数	長崎市立小学校:6日(日にち→9・16・20・23・27・30) 長崎市立小学校【新規】:6日(日にち→14・15・21・22・28・29) 長崎市立中学校:7日(日にち→10・15・17・22・24・29・31) 佐々町立中学校:8日(日にち→8・10・15・17・22・24・29・31) 西海市立小学校:3日(日にち→14・22・29)
2月5日(水)	西海市立小学校で教員向け子どもの権利ワークショップ→降雪のため中止
2月27日(木)	小学校支援員ミーティング【定例】
2月28日(金)	中学校支援員ミーティング【定例】
2月実践日数	長崎市立小学校:5日(日にち→6・13・17・20・27) 長崎市立小学校【新規】:6日(日にち→4・5・12・18・19・25・26) 長崎市立中学校:6日(日にち→7・14・19・21・26・28) 佐々町立中学校:7日(日にち→7・12・14・19・21・26・28) 西海市立小学校:2日(日にち→19・26)
3月25日(火)	中学校支援員ミーティング【定例】※予定
3月26日(水)	小学校支援員ミーティング【定例】※予定
3月実践日数	長崎市立小学校:6日(日にち→3・6・10・13・17) 長崎市立小学校【新規】:5日(日にち→4・5・11・12・19) 長崎市立中学校:3日(日にち→7・19・21) 佐々町立中学校:6日(日にち→5・7・12・14・19・21) 西海市立小学校:4日(日にち→4・5・18・19)

4)実施内容

①長崎市立小学校(2024年5月~2025年3月)

実施体制:支援員5名で実施。昨年度からの継続3名(うち当団体理事1名)。今年度新たに2名。

実施日時:毎週月・木曜日の8:30~13:00に各日支援員1~2名で対応。

実践日数:63日

関わった児童数:延べ267名【2023年度:197名、2022年度:203名、2021年度:55名】

実践概要

- *支援員は学校へ着くと別室として利用できる部屋に待機するが、利用する児童がいない時には校内巡回する。
- *教室に入りにくい児童やその日の調子や精神状態で授業から少しの時間抜ける児童などが主に利用する。
- *利用する児童は担任の先生とその日どの時間に別室で過ごすか話し合い、その内容を記したカードを持って来室する。途中で予定変更する場合は、担任の先生と話し合って決める。
- *別室で過ごす時には工作、おしゃべり、コミュニケーショングッズでの交流などをして過ごしている。
- *その日の終わりに関わった児童の名前や何をして過ごしたかななどを日誌に記入し提出。
- *今年度は当団体とは別で長崎市の別室支援員が支援に入っており、週のうち、○曜日は長崎市の別室支援員、○曜日は当団体の支援員というような形で一緒に支援を実施した。

支援員の感想

【小学校担当】

別室にくる子どもたちと半年間関わるのができた。自分自身2人の子を育てたが、我が子やその友達でも見なかった特性の子どもたちが何人もいて、当初はずいぶん戸惑った。言動が荒っぽい。目を見ない。言うことを聞かない。ルールを守らない。当たり前だと思うことを思った通りにしてくれない子どもたち。受け入れるのか?受け流すのか?自分の身の置き方を模索する時間が長く続いた。

1度、ふたりの男児が別室で大暴れしたときがあった。手製の木刀でいろいろな物を傷つけ、「だまれ」「くず」「ぶっさす」「見るな」などの暴言を吐き続けた。窓から飛び降りるような素振りもみせた子もいた。1時間ほど続いたその粗暴は、好きな工作をし始めたことで収まった。辛く重たい時間だったが、彼らの中に鬱積する何かをみることができた(みせてくれた)貴重な時間だったのかもしれないと思った。叱られることも押さえつけられることもない自由な時間。ありのままの自分でいられる場所を支援員は作ってあげられるのかなと思った。

そんな彼らも時折、素直な表情を見せてくれる。そのときはああやっぱり可愛い。子どもが好きだと思える。次会うときは笑顔だったらいいなあと思い、別室へいく。

学校も仕事も人付き合いも生きること全てが楽しいと思える社会であってほしい。子どもたちとの関わりを通して、より願うようになった。

【小学校担当】

支援員として子どもたちにかかわるのも2年目となりました。

イライラして危険な行為をしている子に、怒ってしまったことで研修までしていただく結果になったこともありました。

日々成長している子どもたちに、自分の関わりがこれでいいのかと考えることも増えました。

地域の方々の支援も子どもたちがたくさんの人と関わり、居場所が増えてとてもいいと思います。学校での別室支援の協議での意見交換も有意義でした。

また来年度も子どもたちに関わって、成長していく姿をみていけたらいいなと思います。

【小学校担当】

私は、この別室支援員という活動を始めるまでは、小学生の子ども達と多く関わりを持ったことはありませんでした。最初は、子ども達とどのような話をしたらいいのか。喧嘩が起きた時にはどう対応したらいいのか。色々なことが手探りで、月一回のミーティングで困ったことを報告しアドバイスをもらいそれを実践しながら活動していました。困った時には、メールで質問することもできたので、とても助かりました。

半年もすると、子ども達とも仲良くなれ、自然に接することができるようになりました。

ある時、Aさん(4年生)が、「家に帰る」と言い、「学校終わったら帰れるね」と返すと「違う。別室のこと。家は別室で、おうち本当の家のこと」と教えてくれました。別室が、Aさんにとって家のような安心できる居場所になっているということがとても嬉しく、そのような場所に今自分自身が関わっているということにも嬉しさを感じました。

この別室支援という活動で私は、教室に行けない理由が自分でも分からず、悩んでいた子。教室に行く時間になってもなかなか行けない子。別室に行く為に頑張って授業に出る子。など様々な子ども達に出会い、一年弱という短い期間ではありますが、子ども達の様々な様子を見て、その成長を身近で感じました。このような成長を見たり、接するなかで、多くの経験や学びを得ることができ、私自身も成長することができと思います。本当にこの活動に関わることができてよかったです。

この活動は、教室になかなか行けない子にとってとても有意義な活動だと思います。今後、このような別室が更に増えていき、助かる子ども達が増えていくとよいと思います。

②長崎県立小学校(2024年5月～2025年3月)【今年度からの新規実践校】

実施体制: 支援員5名で実施。昨年度からの継続1名(うち当団体理事1名)。今年度新たに4名。

実施日時: 毎週火・水曜日の8:30～13:00に各日支援員1～2名で対応。

実践日数: 61日

関わった児童数: 延べ216名

実践概要

- * 支援員は学校へ着くと別室として利用できる部屋に待機するが、利用する児童がいない時には校内巡回する。
- * 教室に入りにくい児童やその日の調子や精神状態で授業から少しの時間抜ける児童などが主に利用する。
- * 利用する児童は別室利用のチケットを担当の先生からもらい、来室時にチケットを支援員へ渡す。
- * 別室で過ごす時にはおしゃべり、コミュニケーショングッズでの交流などをして過ごしている。
- * 課題を持ってきて取り組む子どももいる。
- * その日の終わりに関わった児童の名前や何をして過ごしたかななどを日誌に記入し提出。
- * 今年度は当団体とは別で長崎市の別室支援員が支援に入っており、週のうち、○曜日は長崎市の別室支援員、○曜日は当団体の支援員というような形で一緒に支援を実施した。

支援員の感想

【小学校担当】

昨年の6月から初めて支援員をさせていただきました。事前に研修を受け、子どもたちの気持ちをまず一番大事にしようと思いスタートしました。実際、学校での子どもたちは明るく、それぞれの個性を発揮しているように思えました。週1回程度なので子どもたちとの関係を築いていくにはかなり時間がかかりました。古豊さんから「カードゲームや課題のプリントなどもすべて子どもたちとのコミュニケーションのツールにしている」という話に納得して子どもたちとの関わりを丁寧にしていこうと思いました。

荒い言葉を連発したり、イライラして怒りだしたり、子ども同士で掴み合いの喧嘩をしたりという場面もあり、どうしたらいいのか、どうしたらよかったのか悩むこともありました。月に一度のオンラインミーティングでの支援員同士の共有や先生のご助言に随分助けられました。

友だちとの関係や登校時からの不安定さなどからクラスでは落ちつかない子どもたちですが、最近は別室では落ちついて楽しく過ごしたり、自ら時間を意識したりするようになった子どももいます。支援員には少しずつ自分の気持ちを言葉にしてくれるようになった気がしてとても嬉しいです。支援員が複数で対応できたのもいろいろ相談できて良かったと思います。

私自身は、子どもたちとの関わりやおしゃべりが楽し過ぎて、冷静な対応をしてなかったり、あの時あんな風にしたらあの子どもはどうだったかと振り返って反省することも多かったです。短い時間でしたが、初めの頃に比べると子どもの変化も感じられました。

支援員を経験して、学校にはいろいろな支援クラスがあり、担当している先生方もいらっしゃいますが、別室支援という先生ではない大人が子どもたちの声を丁寧に聴くことの大事さを実感しています。安心して自分を発揮する時間、自分の話をしっかり受けとめてもらえる時間があることがとても大事だと感じました。

私自身も貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございました。

【小学校担当】

別室支援員として半年間、こどもたちに関わっていく中で、支援に携わる当初は不安があったものの、こどもたちの笑顔と人懐っこさに次第に払拭していきました。

みんな、ひとりひとりそれぞれ個性豊かで時には泣いたり、怒ったり、笑ったりと様々でしたが、どの日もいい思い出ばかりです。

その中で、一番印象に残ったことは、「先生、だいすき」（原文まま）と黒板に書かれたことです。書いてくれたこどもは、支援員の先生たちに向けて書いたんだよ。とニコニコして話してくれました。

ですが、別室支援員として関わらせて頂く時間は現実問題、お別れの時が日に日に近づいていきました。

寂しさや虚しさが募ると同時にこのような機会が得られたらもう一度別室支援員としてこどもたちに寄り添い歩んでいきたいと思っています。

【小学校担当】

支援員として7ヶ月仕事をさせていただきました。はじめて来る子どもたちはどの子も何故ここに来なければならぬのだろうと不安そうな顔で別室に入ってきました。

先生から与えられた課題はゆったりやらなかったり。プレイルームで遊んでも終わりの時間は守らない、遊んだ道具は片づけない、友達といさかいを起こしてあばれる。そんなことが何度も繰り返されました。

よそから見たらただの「こまったちゃん」。でも、子どもたちと過ごすうちにわかってきました。彼らは「こまったちゃん」ではなく、彼ら自身が困っているのだということ。

ちゃんと自分を表現したいのにうまくいかないジレンマがあるのではないかなと思うようになりました。回数を重ねるごとに別室が安心して活動できる場と感じてくれたのか部屋に笑顔で入ってきてくれたり、支援員と楽しく会話しながら活動したり、終わりの時間を守れたりすることが多くなってきています。もちろん、毎回うまくいくわけではありません。でも、別室ではありのままの自分であることができているのではないかなと思っています。

そのお手伝いができる別室支援員の仕事は大切なものと考えています。

【小学校担当】

初めて支援に入ってから9か月間という短い期間でしたが、子どもたちの成長のスピードや柔軟性に驚かされる日々でした。また、少人数での関わりだったことですぐに打ち解けることができたと同時に、心の繊細な部分に触れることもありました。

なぜ学校に行かないといけないの?といった問いや、別室から教室に戻るのがいやだという訴えに、どう答え

るのがよいのか悩みました。そうだね、つらいよねという共感の言葉を返してみたものの結果的に教室に戻るよう促しているわけで、自分の言葉、行動がとても薄っぺらいもののように感じていました。子どもの訴えを受け止めることと学校のシステムの中で過ごすことの狭間で、せめて子どもと一緒に悩みたいと思いました。

しかし、悩みながらも継続して関わっていくと、子どもたちのほうが成長し、変化していったと感じます。イライラした様子で来た子が別室やプレイルームで走り回ったりボールを投げたりして感情を出してしまうと、あっさりと普段の様子に戻ることがありました。教室ではなかなか感情を発散させるのは難しいと思うので、別室に来る意味を感じました。また、自分の好きなことに集中して取り組む姿や、教室に戻る時間になったら気持ちを切り替えて片づけができる場面が増えました。

別室が「安心」を感じられる場所として常にそこにあり、子どもが自分で自分の「安心」を見つけたり、作っていただける環境を提供することがとても大事だと感じます。どの学校でも別室支援が必要だと思うので、こういった取り組みが増えていくといいなと思います。

③長崎市立中学校（2024年5月～2025年3月）

実施体制：支援員3名で実施。昨年度からの継続3名（うち当団体理事1名）。

実施日時：毎週水・金曜日の9:00～16:00に各日支援員1～2名で対応。9:00～14:00に1名、11:00～16:00に1名というシフト制のような形。※配置できない日、時間帯もあった。

実践日数：61日

関わった生徒数：延べ743名【2023年度：485名、2022年度：238名、2021年度：187名】

実践概要

- *支援員は学校へ着くと別室へ行き利用する生徒と過ごす。この学校の場合、利用する生徒は別室の利用申請をしている生徒たちで、登校した時には教室へは行かず別室へ来ることが多い。登校時間や下校時間、利用する頻度なども生徒によって違う。
- *生徒によっては出ることができる授業に出席している。定期テストも教室で受けたり別室で受けたりしている。
- *別室で過ごす時には多様なコミュニケーショングッズでの交流、パズル、おしゃべり、自学などを行っている。
- *給食を別室で食べる生徒と一緒に支援員も給食を食べる。
- *その日の終わりに関わった生徒の名前や何をして過ごしたかななどを日誌に記入し提出。
- *今年度は当団体とは別で長崎市の別室支援員が支援に入っており、一緒に支援を実施した。

支援員の感想

【中学校担当】

今年度、中学校の別室支援に参加させていただきました。中学校の教室で授業に参加することが難しい生徒さんたちと関わる中で、それぞれの生徒さんが友人との関係や学校生活の過ごし方、先生や親との関係に悩みながらも踏ん張ってエネルギーを使いながら学校に通っていることを知りました。そんな中で、それぞれが受験など自身の目標のために自分なりに努力している姿を見ることができました。別室に来ている生徒さんたちは、自分の現状に不安を抱えながらもできることに少しずつですが一生懸命取り組んでいました。別室を休憩場所として利用し、教室への参加を少しずつ増やしていく生徒さんもありました。

昨年度は小学校の別室支援に参加させていただいたので、小学校と中学校で別室を利用する子どもたちが抱える悩みの違いや対応方法の違いに悩むこともありましたが、教室で授業を受けるのが難しい、学校に来てみんなと一緒にいるのが苦しいという現状に困難さを感じているのは同じだということに気づき、子どもたちに寄り添いながらこぼれてくる思いや悩みを受け止められる関係づくりをしようと思いながら活動していました。

また、小学校でも中学校でも安心できる別室の環境作りには支援員だけでなく学校の先生方の協力も不可欠であることを再度痛感しました。やはり、子どもたちにとって学校においては先生方の存在が強い

で、先生方がどう思っているか、どんな対応をされるかを子どもたちは気にしています。そのため、先生方のご協力とご理解があつてこそ、子どもたちも安心感を持って前向きに挑戦してみようという気持ちが芽生えるのではないかと思います。

【中学校担当】

支援先の中学校に週に1～2回お伺いしています。

不登校生徒支援における学校内別室への支援員派遣事業も4年目となりました。卒業した生徒たちと再会すると、現在の近況はもちろん、「あの時別室があったから学校に行けた」「支援員が来る日は行くようにしていた」といった声を聞くことがあります。その言葉から、別室が単なる逃げ場所ではなく、生徒にとって大きな意味を持つ場所であることを改めて実感します。

別室での関わりによって、子どもたちにどのような影響が現れるのか、短期的には見えにくいこともあります。時には自分の無力さを感じたり、対応が正しかったのか悩むことも少なくありません。しかし、長期的に見れば、生徒が少しずつ変化していく姿を感じる瞬間があります。

例えば、周囲に気を使いすぎて自分の気持ちを伝えるのが苦手だった生徒が、「自分の気持ちを伝えても大丈夫なんだ」と実感し、表現できるようになることがあります。また、家庭や学校、友人関係に生きづらさを抱え、誰にも話せずにいた生徒が、安心できる環境の中で少しずつ自分の気持ちを言葉にすることもあります。

大切なのは、「クラスに戻る」ことを唯一の目標とするのではなく、生徒が自分らしく歩み出せる環境を提供することだと感じています。関係性を築いていく中で、生徒たちが困ったときに相談できる大人が一人でも増えることは、彼らにとって大きな支えとなります。先生や親とは異なる立場の大人が丁寧に関わることで、誰にも話せなかった悩みを打ち明けてくれることもあります。クラスでの苦しさやいじめの経験、進路への不安、家族との関係性、時には「いなくなりたい」という気持ちさえも、安心できる場所だからこそ話してくれるのだと思います。

校内別室支援が、ただの逃げ場所ではなく、生徒が安心して自分の気持ちを受け止めてもらえる場所であり、自ら一歩を踏み出すことのできる場所であるように、これからも子どもたちの声に耳を傾けていきたいと思っています。

④西海市立小学校（2024年10月～2025年3月）

実施体制：支援員2名で実施。昨年度からの継続2名（うち当団体理事1名）。

実施日時：毎週火・水曜日の9:00～12:00に支援員1～2名で対応。※配置できない日、時間帯もあった。

実践日数：22日

関わった児童数：延べ27名【2023年度：43名】

実践概要

- *支援員は学校へ着くと別室として利用できる部屋に待機するが、利用する児童がいない時には校内巡回する。
- *教室へ入れない児童が主に利用する。
- *別室で過ごす時には絵を描く、おしゃべり、コミュニケーショングッズでの交流などをして過ごしている。
- *その日の終わりに関わった児童の名前や何をして過ごしたかなどを日誌に記入し提出。
- *昨年度からの継続校だったが準備が遅れ、実践開始が10月と遅れた。支援員を西海市内で募集しようと試みたが申込者がおらず実施できなかった。課題の多い1年だった。

支援員の感想

【小学校担当】

今年度は課題の多い1年でした。地域の中から支援員をお願いできる方を探そうとしましたが周知がうまくいかず申し込みがなく、支援員が手薄な状態で実践を行ったこともあり、日数や支援内容などが事前の予測と違い、うまくいかないことが多かったです。

特に学校との連携に時間を割くことができず、結果的に別室を必要としている子どもに届かなかったのではないかと思います。他の学校では今年度学校との協議の機会が増え、そのことが支援員同士の理解、学校との理解を深める機会になっていたのって、そのような機会をもっと積極的に作っていく必要があると感じました。

ただそのような中でも関わりを持ってくれた子どもたちには逆に力をもらいました。今後も様々な地域で校内教育支援センターが拡充されていくと思いますが、まだ無い学校に入る時には、事前の協議、定期的な協議、そういう場が良い実践を作るのだとあらためて感じました。

⑤佐々町立中学校(2024年5月～2025年3月)【地域の団体と連携して実施】

実施体制:支援員6名で実施。昨年度からの継続5名(うち当団体理事1名)。今年度新たに1名。

実施日時:毎週水・金曜日の8:30～16:00に支援員1～3名で対応。

実践日数:83日

関わった生徒数:延べ515名【2023年度:189名】

実践概要

*支援員は学校へ着くと別室へ行き利用する生徒と過ごす。利用する生徒は別室の利用申請をしている生徒たちで、登校した時には教室へは行かず別室へ来ることが多い。登校時間や下校時間、利用する頻度なども生徒によって違う。

*生徒によっては出ることができる授業に出席している。

*別室で過ごす時には多様なコミュニケーショングッズでの交流、塗り絵、おしゃべり、自学などを行っている。

*その日の終わりに関わった生徒の名前や何をして過ごしたかなどを日誌に記入し提出。

支援員の感想

【中学校担当】

この別室支援に関わることができ、早1年半くらい。当初は、戸惑いや考えることが多かったように思いますが徐々に子どもたちとも会話が増え、特性についても対応できるように。また、支援員内で相談し共有して対応に努めました。

学校・支援員・先生方・教育委員会との協議を重ねながら、個々に悩みや困ったことなどを話してくれるようになり、学校での事、家庭での事など、どこまで入り込んで良いのか悩むこともありましたが、ただ「聞く」ことでその子の気持ちが整理できることもあるのだと思いました。

今年度は、OD・自傷行為などもあり、教室内に不安要素がありましたが、2学期からは、3年生は受験モードになっていき、2年生も落ち着いて過ごせました。3年生は、受験までの準備での不安を抱えながら果敢に自分と向き合って過ごしました。別室では、作文、面接、過去問題に服装や態度、言葉使いなど、支援員も一緒になって、子どもたちと向き合えました。

その甲斐もあり、別室の3年生は、志望校に合格することができ、本当に良かったです。次年度に向けての協議も進めていきますが、少しずつ別室での過ごし方にも変化していく形になりそうです。

できることを前向きにやっていこうと思います。お疲れさまでした。

【中学校担当】

今年度、1年間を通して、別室支援をさせていただきました。新学期の緊張感から、3月の卒業を見送っての安堵感まで、この1年間はいろいろなことがありました。いいこともありましたが、反省が多い1年でした。

2年目になり、子ども達も支援員に慣れて来て、学校のこと、家庭のこと、友達のこと、進路のこと、いろいろと深い話をするようになりました。子ども達の思いに応えたい反面、何もしてあげられないこともあり、どうしてあげればよかったのか答えが見つけられないこともありました。

今年度在籍していた子ども達にとっては、カウンセラー的な役割がとても大きかったように感じています。

来年度も子ども達に寄り添った支援ができるように、自分自身も学びの 1 年にしていきたいと思っています。

【中学校担当】

年度の途中から別室支援に関わりました。一人一人の子どもたちの抱えるものが分からないまま子どもたちと接し始め、少しずつ自分の事を話してくれるようになり、やっと子どもたちの事が少し掴めるようになったかな、というところで今年度が終わります。

毎年の事とはいえ、新年度には先生やクラスメイトが変わり、子どもたちの心の負担は大きいだろうと思います。そんな時に、顔なじみの支援員がいることは、大きな意味があると思うので、出来るだけ、同じ支援員が同じ環境で、長く関わる事が大事だなと感じました。

また、子どもたちと話をする中で、身近な大人の言葉の影響は凄いな、と感じることがありました。教師に対する不満を親が口にする事で、その子も同じ意見を持ってしまう状況に、大人の発言は責任をもってされるべきだな、と改めて思いました。

【中学校担当】

佐々町で支援員として、別室に関わらせていただき、1年半ぐらいになります。月に1、2回程度しか入れませんが、子どもたちも支援員というか、別室の人として認識されてるようになりました。

教室に入らなくなった理由は、一人ひとり違うと思いますが、別室という学校内の居場所に来てくれる生徒や家族の気持ち・思い・願いなどを考えながら接しないと、思っております。

久々に会うといろんな話をしてくれたり、ゲームを一緒にして楽しむことが多いです。その反面、退屈に時間だけ過ぎるのを待つ生徒もいます。以前、長崎市立中学校の実践を見学させていただいた時にパズルが飾ってありました。私も子どもの頃パズルに夢中になったことがあったことを思い出し、家にあったモノクロの完成していないパズルを別室に持っていきました。最初は食いつきがあまり良くなかったのですが、退屈で何もすることがない時に、交代でパズルをする姿を見て、これはいいのかもしれない!と思いました。白黒なのでなかなかハマらないのが、子どもたちにやる気を起こさせたのかなと。3 ヶ月ぐらいかかったと思いますが、いつ頃完成するかな?年末?卒業までには?など、時間の感覚なども体感できたのかな?と思いました。

学校との関わりですが、先生方も交えたミーティングの時間をとっていただいたことで、昨年度よりもそれぞれの生徒の担任の先生方が別室に来ていただけるようになったかなと思います。空き時間がある先生も来てくださいました。ただ、まだ学校と支援員との考えには少し異なる部分もあるため、協議をしていく必要はあると思っております。

今年度は、中学校の卒業式に参加させていただきましたが、別室でも校長先生が、卒業生に証書をお渡しするとのことでした。生徒と保護者の方の笑顔が見ることができ、ほんと嬉しく思いました。ここまでの道のりは長かったかもしれませんが、春からは、自分が決めたそれぞれの道で頑張ってもらいたいと思います。

来年度からは、また別室の生徒の入れ替わりがあると思います。別室に来れない生徒のことも気になりますが、私も、まだまだ勉強不足ではありますが、学校には来れるけど、教室には入れない、そんな子どもたちのサポートを学校や保護者とも連携を図りながら、これからもできればと思っております。

【中学校担当】

中学校での支援員として子ども達とすごして2年目になります。

私は主に午後から勤務しているのですが、5、6時間目は、それぞれイラストを書いたり、一緒にトランプやゲーム、パズルをしたり、雑談をしたり、休憩したりと、子ども達はリラックスしてすごしている時間が多かった

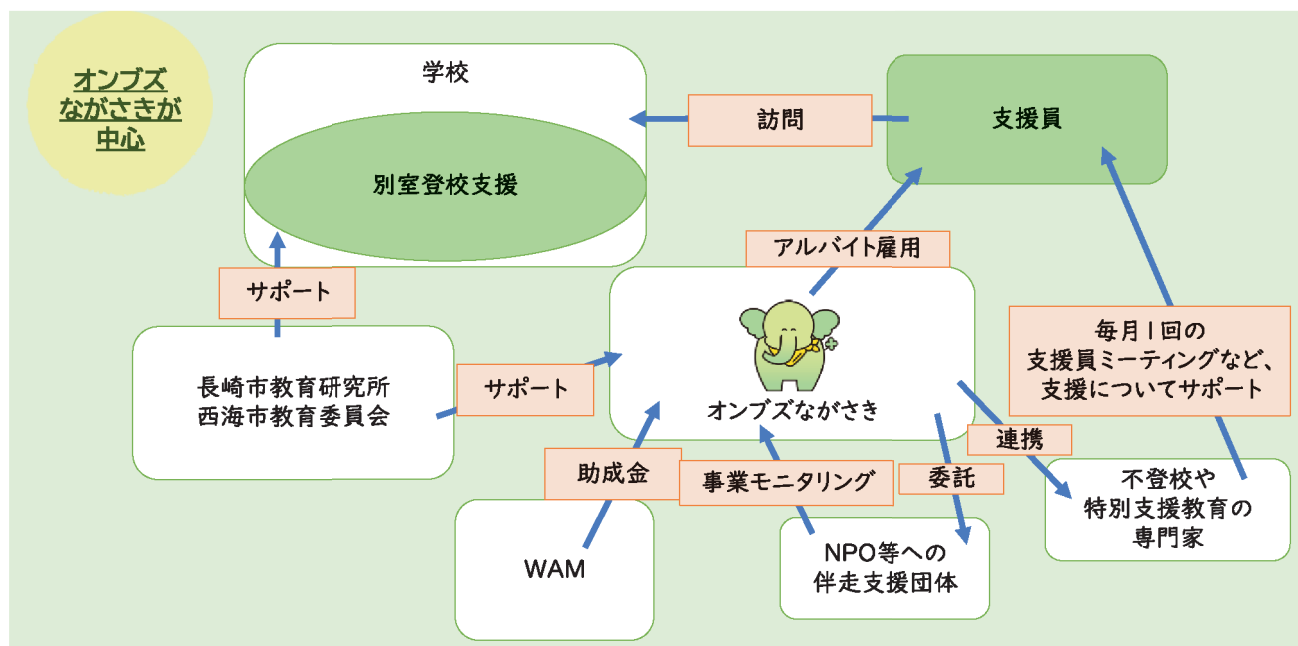
です。

掃除の時間は、昨年度は別室以外の子達が来てくれて掃除をしてくれている感じだったのですが、今年度は、先生が来てくださり、みんなで協力して自分たちの部屋を掃除できたのはすごくよかったです。

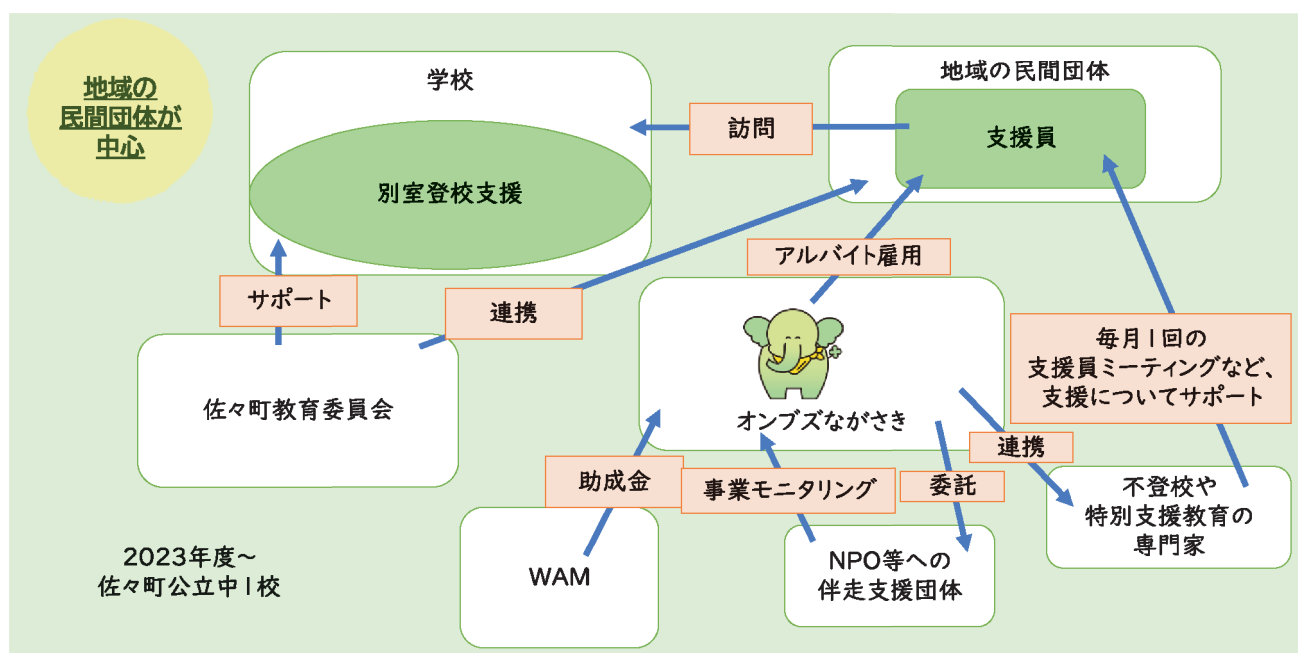
2年生が修学旅行に行く時期は、いっしょに旅行先についての話をみんなでできて楽しかったです。

3年生は進学に向けて、それぞれのできることをがんばっていました。

様々な事情などのかかえる子ども達に自分から積極的に関わることにはできなかった気がしますが、これからもいろいろな形で子ども達と関わっていけたらと思っています。



↑①～④の形式



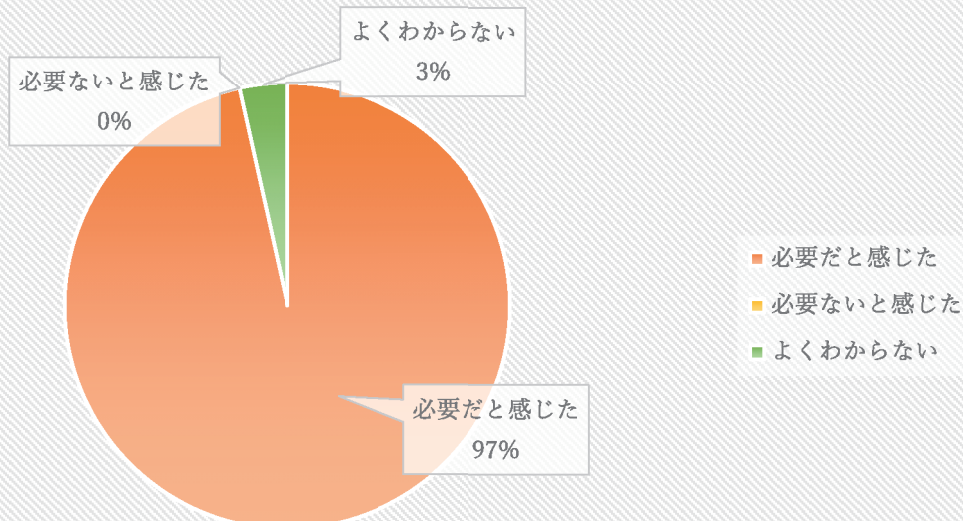
↑⑤の形式

5)学校内別室への支援員派遣事業をふり返って

①支援員派遣についての調査への回答結果(学校職員用)

1:別室に支援員が入ることについて【回答数:87】※うち無回答1

別室に支援員が入ることについて



①必要だと感じた【83】

②必要ないと感じた【0】

③よくわからない【3】

選択した理由※一部抜粋して掲載しています。○の数字は質問1の回答番号

【小学校】

- ①当該学級ではないが、人数をかけて行えることはぜひ実施していただきたい。
- ① 教室に入ることができない子にとっての居場所、相手をしてくださる存在は本当に有難いです。
- ①学習に付いていけない児童の避難所、心の休憩所になっていると思う。
- ①支援学級の児童にとって教室の外に出て身体を動かしたり、多くの人に触れる機会を作るとはとても大切です。担任一人では対応しきれないため、非常に助かっていると思います。
- ①児童がより安全に過ごすためには、そばに大人がついておくことは大切なことだと思うから。
- ①教室を抜け出してうろうろする子どもがいるので安全のために声をかけたりしてくださるのが安心できる。
- ①教室で落ち着いて過ごすことが難しい児童にとって居場所が増えることはとてもいいことだと思うから。また複数の目で見守ることができる環境がありがたいです。
- ①担任だけでは対応できない個々への支援の必要性。
- ①教室に入れない子どもたちの居場所になっています。ありがとうございます。
- ①学校に来たいという一つの理由になっている(子どもの)。
- ①どうしても教室に入れない子、教室に居ることによって周りの子への悪影響を及ぼしてしまう子など、支援員さんがいらっしゃることで教室で何も問題なく学習をしようとしている子たちが学習時間を保障される。
- ①児童の特性によって1日学習、学級に向かうのが息苦しいと感じる子がおり、どのように対応するか困った時支援員さんがいていただき大変助けになります。多学年を見ている私には、本当にありがたい存在です。
- ①それをきっかけに登校する児童がいると伺ったから。
- ①子どもにとって気分転換になり、次の授業への意欲につながっていると感じるから。
- ①落ち着きのない子にとっては、とても重要な場所になっていると思う。
- ①教室に入れない子どもたちを見ていただけてとても助かりました。
- ①1人1人が求めていると思ったため。

- ①自学級の子が利用しているわけではないが、様子を見ていると落ち着いているように見える為。
- ① 教室で子どもたちが気持ちを落ち着かせる場を十分に確保できない。
- ①現在、在籍している学級の中ではなかなか個に応じた対応が難しいと考えられる児童がおり、その児童の居場所として大切な場となっていると感じるから。
- ①さまざまな理由や発達特性などで集団の場ですぐすことに困難を抱えた児童が増えている。1日または2～3日に1時間でも本人のペースで過ごせる環境が必要だと感じる。別室という部屋だけでなく、そこに受容してくれる大人がいることでより安心感が生まれると思う。
- ①落ち着くことのできない子たちが安心して取り組むことができる。
- ①供たちの心の拠り所になっている。職員(学校)にとっても別室で支援していただけることで本来の業務を行うことができる。
- ①別室支援を利用することで学習がスムーズに進んだり、情緒の安定を図ったりすることができました。集団での学習が苦手なお子さんにとっては有りがたい場所です。
- ①教室で担任だけではなかなか手が回らないとき、別室に支援員さんが入ってくださるとありがたいです。
- ①担任一人で対応できない時に個別に支援していただくと大変助かります。
- ①担任だけでは対応(指導)することが難しい現状です。大変ありがたく思います。
- ①1年担任ですが、日々クラスに入りきれない子や気持ちが不安定になった子が落ち着く場として活用させてもらっていました。その子のためにも、周りの子のためにも必要だと感じます。
- ①落ち着かない子がいると他の子の学習もできなくなる。本人のためにも他の子のためにも落ち着く場が必要。
- ①担任など学校側だけで対応が難しい場合に非常に頼りになる。
- ①別室からもどってきた子供たちは気持ちを切り替えて授業に臨むことができているから。
- ①教室では気持ちのきりかえができない児童が、お部屋と別の方に話を聴いてもらうことで、徐々に落ち着き、次の学習にむかうことができるきっかけになるので入ってサポートしていただけることがありがたいです。
- ①学級で不適応行動を児童の対応をしていると、担任の先生は授業が進まず学習進度に影響を及ぼすため大変助かっていらっしゃると思います。
- ①教室で落ち着かない児童が別室での支援を受けることで周りの児童の学習保障につながると思う。また、集団ではなかなかうまくいかない児童も別室があるということで登校につながっていると思う。
- ①1対1についてあげる余裕がないなかでついてもらえると大変助かる。
- ①教室の中でなかなか落ち着けないでいる子たちが安心してすこし気持ちを切り替えるのに見守っていただけると、とてもありがたいです。
- ③良い面とそうでない面があると思います。

【中学校】

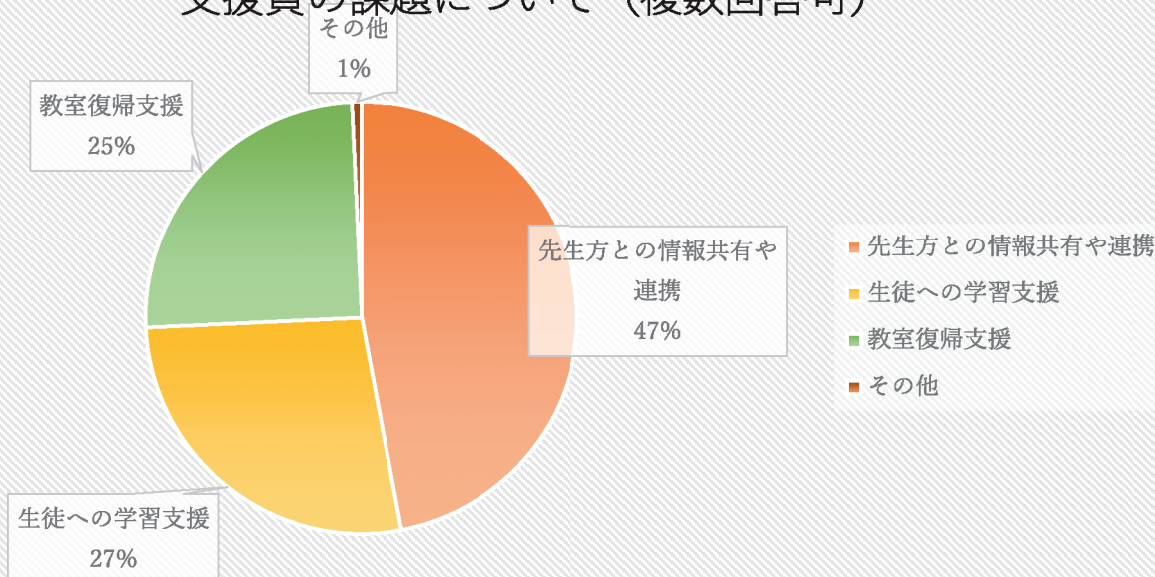
- ①生徒たちだけでは心配な所が多く、目が行き届かない面があるため、大人の方が在室していただくのは大変ありがたいことだと感じます。
- ①大人がいないと心配だから。
- ①教職員の手が足りないので支援してもらえるのはありがたい。
- ①学校教員だけではだれも支援者がいない状態になってしまうこともあるかもしれない。
- ①教師の負担も減るし、様々な大人の介入も必要だと感じたから。
- ①別室利用する生徒の視点で考えると、学校(教職員)以外の方が支援の在り方が広がるから。(関わり方、第三者)。
- ①授業についてきていない(ノートをとれていないなど)生徒がいるから。

- ①別室対応として手厚くサポートいただけているから。
- ①教室では暗い表情の生徒の笑顔が見られる。
- ①生徒の良き相談相手となる存在に感謝しています。
- ①いろいろな点で満たされていない(学習、対人、愛情など)生徒が多いと思います。たくさんの人との関わりが必要と考えます。
- ①教師以外の立場の人がいることで、悩み中の生徒は相談する大人の幅が広がるから。
- ①学校によっては別室の生徒の対応を空き時間にあてているところもあるので空き時間ができ、その分教材研究等にあてられるので大変助かっています。ありがとうございます。
- ①教員が入れないと不安な所があるため。生徒が教員に話せないこともあるから。
- ①教職員の負担軽減につながる。生徒理解。
- ①教職員の負担軽減。
- ①生徒たちが少しでも小さなことでも話しやすくそういう場が必要だと考えたから。
- ①職員不足の中、対応いただけるのは有り難いです。
- ①職員だけでは対応できない。
- ①学校職員の業務を軽減するため、また、学校職員と話ができない生徒のためにも必要と思います。
- ①教職員の数が少なく、なかなか別室対応ができない状況なので大変助かっています。
- ①さまざまな立場で生徒たちを支援する必要があると思う。
- ①常に教職員が入ることは時間的に無理があり、支援をいただけると助かるため。
- ①専門性が必要だと感じたこと、人材の補充が必要だと感じたから。
- ①人(大人?)と関わる必要な生徒が多いと感じるので支援員さんは必要だと思います。
- ①担任、学年職員だけでは対応が難しい。
- ①教員不足の中支援員の方の協力で生徒の支援ができることは大変ありがたい。
- ③どんな支援をされているのかわからないです。
- ③対応してくれる人がいるのは、教員の負担減となるのでとても助かるし必要だと思う。しかし現状教室内は生徒が多くて騒がしく、静かに勉強する環境がない。



2: 支援員の課題について(複数回答可)

支援員の課題について (複数回答可)



①先生方との情報共有や連携【64】

②生徒への学習支援【37】

③教室復帰支援【34】

④その他【1】

選択した理由※一部抜粋して掲載しています。○の数字は質問2の回答番号

【小学校】

①今も共有しています。今後も大切と思い、チェックしました。ありがとうございます。

①③市の支援員さんも含め、子どもへの対応を揃えることは信頼関係を構築していくという点で不可欠。子どもは子どもの中で成長していくという点でめざすのは教室復帰だと考えます。

①子どもに約束を確実に守らせること、もし、子どもたちが言うことを聞かなかったり、ケガをしてしまったりしたときは、どう対応するか、周りの教員も対応するべきか。

①徘徊する子にどんな声かけが必要なのかを連携する必要がある。Aくんに対しては「教室に戻りなさい」Bくんに対しては「担任の先生に自分の居場所を伝えてきなさい」Cくんに対しては離れて見守る…など子どもによって必要な対応が異なるかと思います。

①時間があえば、お世話になっている子どもの情報共有をしたいなと思っています。

①子どもに関わる大人が同じ指導をすることで、本人が困らずに生活できると思うから。

①授業の時に別室教室に行っていたりしてどこの教室で何をしているのか分からないことがありました。

①年に数回、担任等と直接話して情報共有ができればと思います。

①利用する子どもには配慮や支援が必要な子どもが多く、どんなことがNGでどんなことなら安心するか、また相性が合わない子ども同士を同時に利用しないなど知っておいてほしいことがある。頻度は少なくとも定期的に情報共有できるとありがたい。

①担任とは記録でのやり取りが多く話す時間が取りづらい。

①担任や関係職員との情報共有の場を設けることができず申し訳ありません。今後は定期的にそのような場を設定します。

①それぞれに課題をもった子どもたちが利用しています。情報を共有するためには時間が必要ですが、そのちょっとした時間を作ることができず申し訳なく思っています。

①子供の特性や特徴など特に情報の共有が必要だと思います。

①集団の中では厳しい子がマンツーマンではどのような状況なのかや集団では気付かない特性などを聞けたらありがたい。

①送り出すときに直接お会いできることが少ないため、クラス状況を上手くお伝えできていなかったと反省して

います。(私自身の反省になりすみません。)

①一方的にお願いしているので、ご迷惑をおかけしているだろうなど心苦しいと思います。

①学級での様子を知りたいと思いますので、情報共有の時間を必要とされてるかと・・・。

①よりよい支援のため情報共有の機会が必要であると思う。

①別室に行くと、その子の様子がわからなかったりするので教えていただいたりできるとありがたいです。また、その子の対応法など連携できると子どもたちのためになると思います。

①②一人一人に応じた対応と支援が必要である為。

①②別室利用に対する学習の支援(課題)については学校側はどこまでお願いしていいものか、支援員の方々はどこまでさせていいのか、双方で確認していく必要がある。

①②別室の時間が多い児童の学習支援に悩んでいます。そして、もっと情報を共有し、児童の別室での過ごし方が支援員の方のストレス、負担にならないようにしたいです。(学習機会の少ない子に対する支援の仕方を少しこちらの方で考えたい。)

①②情報共有をはかる時間を設定できることが難しい。

①③個々の子どもたちの特性について、お互い情報共有を定期的に行う必要があるのではないかと思います。

①③別室は楽しいけれど教室でみんなと過ごしたいと思ってほしい。担任が見ていない間の情報がほしいのと、その子について知ってもらいたいのと。

①②③支援員の方へは本当に感謝しています。その上での考えですが、今度はより連携を図り教育的ニーズに応じながら学習の保障もできるといいと感じるから。

①②③お互いにどういう活動をしているか分からない。

②別室活用中の学習の遅れは気になる部分です。

②自分の学級の児童が利用していないため、どのような困り感があるのかがはっきり分かりません。しかし学習のズレが生まれると聞くため、そこが課題かと思いました。

②担任の手を離れて不安なのが、学習についてであると思う。その支援が手厚いものとなれば助かると思う。

②③私のクラスではお世話になっていないので、いまいち分かりませんがこの2つを助けていただけるとありがたいと思います。

【中学校】

①支援員の先生方からの記録は常に細やかに記載されていてわかりやすいです。こちらが多忙でなかなかゆっくり情報を共有できないのが申し訳なく思います。

①あまりお話する機会がないから。

①どのように関わっていただいているのかこちらがほとんど把握できていない。申し訳なく思っています。

①一部の職員との連携は取れているが、全体への広がりという視点からはまだまだと感じる。

①担任の先生とどのように約束をしたことを共有してどのようにすごしているか、何を悩んでいてどうした方がいかなどがわかると担任になったらありがたいかなと思いました。

①指導方針の共有、生徒情報を共有する時間の捻出がむずかしいと感じます。

①情報共有や、指導・支援方針の共通理解などする時間が十分に取れないこと。

①なかなか時間がとれなかったから(担当以外)。

①様々な環境や事情のある生徒が多いので情報共有は必要だと思います。

①話す機会が少ない。

①②配慮すべきこと等の共有をするべきかと思いました。

①②情報共有する時間が取りにくい、いい方法があれば。

- ①③多忙な中でも教員は常に聴く姿勢を持ちよく話すことが大切だと思う。
- ①③すべての生徒ではないが学生の支援員の方もいらっしゃるが別室で完結してしまっている生徒も見かける。何か小さなことでもいいので、生徒についての情報交換があればこちらの声かけも変わってくるかもしれません。
- ①③本人、保護者が望む方向に関わる大人が方向性合わせて進む必要があるから。
- ①③別室から教室復帰できない生徒が多いから。
- ①③情報共有が課題だと思う。別室から教室復帰が課題だと思うため。
- ①②③課題だと思うが今年は大きく良い方向にいていると思う。1人1人かかえている問題が違うので対処していくのは大変だが、様々な立場で支えてくださっていることに感謝しています。
- ①②③どの選択肢も生徒の支援には欠かすことができない要素だから。
- ②登校することが目標の生徒がいる一方、教室で勉強できないから行く生徒もいる。その生徒たちへの対応が不十分に感じる。
- ②③対人関係に関する悩みを抱えている生徒も多いが、それに伴って学習の進度に差が出ることによる無気力にもつながってきそうだから。
- ③教室への後押しをするタイミングは教師にとってもとても難しく、支援員にとっても見極めが難しいと思うから。
- ③居心地の良い別室になっていると感じます。

3: 支援員の派遣について思われたことをご自由にお書きください※一部抜粋して掲載しています。

【小学校】

- ☆いつも温かく子どもたちを支援していただき感謝しています。子どもたちの心のより所となっていると思います。今後も情報共有、連携のもと協力しあって指導していければと思います。
- ☆精力的かつ献身的なサポートにいつも感謝してます。子どもを第一に考える姿勢は私達教職員も同じです。今後とも緊密に連携していきたいと思います。よろしくお願いいたします。
- ☆子どもたちがふらふらと校内を歩くことが、1番心配なためありがたいです。しかし利用することの意味やルールを子どもたちがしっかり理解できるようにしなければ、誰もが自由に行けるとなっては困ることもあるなとも思いました。よりよい体制になるよう我々にもできることはしていきたいと思います。いつもありがとうございます。
- ☆いつも子どもたちを温かく見守ってくださり、ありがとうございます。
- ☆児童にとっては、別室が単なる場所ではなく、心の居場所(拠り所のような)になってる児童もいるのではないかと思います。そういう意味では、支援員さんの存在は重要なのではないかと思います。
- ☆教室前のろう下を別室利用した子どもたちがにこにこいい表情で歩く姿をよく見かけました。子どもたちが安心して過ごせる居場所をつくってくださり、ありがたいです。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。
- ☆いつも感謝しております。
- ☆“別室が開いている曜日は学校に来たい”という子どもの声を実際に聞いています。子どもたちの登校の活力になっていると思います。これからもよろしくお願いいたします。
- ☆いつも助かっています、ありがとうございます。今後共よろしくお願いいたします。
- ☆学習に向かえない児童、人との関わりがスムーズでない児童が別室支援員さんのおかげで笑顔で学校生活を過ごすことができ、少しずつ個人差がありながらも成長している子達を見て、毎日感謝の気持ちでいっぱいです。児童のさらなる成長のために、一緒に児童に関わって頂けたらと思います。
- ☆今年度は、本学級の児童が別室を利用していないため、あまり分かりませんが、廊下をウロウロしていたり気持ちの切りかえができず廊下で駄々をこねたりしていた子にやさしく声を掛けていただきました、ありがとうございました。
- ☆いつもありがとうございます。
- ☆支援員の方々の存在は、子どもたちにも私たちにも大きく、とても頼りにしています。子どもたちへの対応も丁寧

で頭の下がる思いです。ありがとうございます。

☆クラスでの授業の予定があるときに別室に行っていることが多く、授業の進捗もあるので別室を使用する頻度や約束等があるともっと利用がしやすくなると感じます。

☆いつもありがとうございます。オンブズパーソン以外の団体も入っていると思います。そこの情報共有、交換もできればと思います。

☆困っている先生を救っています、ありがとうございます。

☆大変ありがたく思っています。今後ともよろしくお願いします。

☆1～2学期入っていただけたことで子どもたちが落ち着いた状態を作っていただきありがとうございました。

☆これまでマンパワーの不足により支援したくてもできないことが多々ありましたが、別室支援という新たな場が設けられ、子どもの居場所ができたことに大きな意義を感じています。支援員の方の子どもへの温かいサポートにも感謝しています。今後はより連携を深め、教育の場として子どもたちの教育的ニーズに応えていえるといいなと思います。ぜひ次年度も実施していただきますよう願っています。いつもありがとうございます。

☆これまでマンパワーの不足により支援したくてもできないことが多々ありましたが、別室支援という新たな場が設けられ、子どもの居場所ができたことに大きな意義を感じています。支援員の方の子どもへの温かいサポートにも感謝しています。今後はより連携を深め、教育の場として子どもたちの教育的ニーズに応えていえるといいなと思います。ぜひ次年度も実施していただきますよう願っています。いつもありがとうございます。

☆春から週2回来ていただいたことにより、他のボランティアの方も参加されるようになりました。ぜひ、どの学校でも配置されることが当たり前になり、多くの子どもが安心して学べる環境を一緒に作っていただきたいと思います。いつも感謝しています。

☆“感謝”という思いしかありません。今後も一緒に子供たちを見守っていただけることを心から願っております。よろしくお願いします。

☆特支学級の子どもが多く利用させてもらっています。個別の学習形態が効果的な子どもにとっては別室支援でプリントやスキルなどを落ち着いて学習でき、後半の時間は折り紙やお絵描きなどができています。その間特支学級にいる子どももトラブルなくすごして学習することができてとても助かっています。2学期はたくさん助けていただきありがとうございました。

☆ただただ感謝です。ありがとうございます。

☆別室があることで、ゆっくり話を聞いてもらえる安心感、話を聞いていただけているからこそその信頼ができています。2番に記載したように、クラスで何があったのか、どのような経緯で不安定になったのかなど伝えられていないことが多く、申し訳なかったなと思います。ですがいつも柔らかい表情で戻ってくるので、とても有難かったです。いつも気持ちに寄り添った対応をしていただき、ありがとうございます。

☆ほとんどボランティアで入っていただき、ありがたいです。

☆いつもありがとうございます。別室支援員の方のおかげで対象児童はもちろん、学校、担任もたくさん救われています。今後はより一層連携をとっていければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

☆担任が話を聞き取れないことがあっても、別室でゆっくり話を聞き子供の心に寄り添っていただきありがとうございます。教室の大人数の中では、学習が難しい子ども1対1で教えていただきながら進めることで、「できた!」「わかった!」を深め、自信をつけることができているので感謝いたします。

☆いつも「助けてー!」と思う時に別室での支援をしてくださりありがとうございます。記録を読ませていただいておりますが、行った内容を詳しく記していただいて、その後の声掛けがしやすいです。いつも本当にありがとうございます。

☆支援員の派遣によって、子どもたちは大変救われていると感じます。(別室に行く児童も周りの児童も)また、そうした児童対応を行っていた担任の負担もへり、本当にありがたいと思っています。

☆日々支援していただき大変助かっています。じっくり向き合ってあげたい時になかなかできなく、もどかしく思って

いました。私たち教員だけでなく子どもたちにも(利用する子、教室に残る子)大変ありがたいと感じています。
☆いつも温かい支援をしてくださり、ありがとうございます。教室の中で落ち着けない子どもたちの良い居場所になっていると思います。これからも学校を支えていただけるととてもありがたいです。これからもよろしくお願いします。

【中学校】

☆たいへん助かっています。
☆生徒たちにとってはとてもありがたい存在であると思います。いろいろお話も聞いてくださっているようで居場所ができ、安らげている生徒も多いようです。ただ教室復帰という点では、目標を明確に掲げるのが難しいように思います。本当にお世話になっていると思います、ありがとうございます。
☆ありがたいと思います。
☆どんどん派遣していただきたい。
☆常に見ている訳ではないので、今回の意見への対応も既に実施されているかもしれません。あくまで、たまに見に来た人の意見として参考程度に考えてもらえたらと思います。
☆いつもありがとうございます。
☆青い鳥へ安心して登校できる生徒が増えて感謝しています。自分も足を運ぶ回数が少なく申し訳ないのですが、学校職員と情報共有や連携がもっと出来れば学習支援や教室復帰支援が進むと思います。いつもありがとうございます。
☆別室で支援員さんにどこまでの学習支援を依頼できるのか、依頼してよいものか個人的に迷います。
☆いつも大変お世話になっております。何人の方が来られていて、そのような支援をしてくださっているのかもっと知る必要があると考えています。
☆学校運営上とても助かっています。今後もしばらくご支援いただけると助かります。様々な生徒に関わる情報を共有し課題解決を図っていきたいと思います。
☆派遣はありがたいです。本校のスタート体制に問題があったと思う。ねころがる、わがまま、自由すぎる、それを最初の1年に改善できなかったことにより別室の他保護者への印象がよくない。
☆校内にあるので担任との連携が必要だと思いました。しかし、教員側も支援員の先生に教員のような立場を望むのではなく、支援をしていただける方として協力をおおぐのがいいかと思いました。別室の位置づけを明確にしてお互いにどのように協力しあうか具体的に決めていけるといいと思いました。
☆楽しく学ぶことや個々に合わせた対応が必要なこととわかっているが学校活動(別室)なので、最低限の学力保障をするための別室だと思います。教室復帰することを一番に考える必要があると思います。
☆教室になかなか入れない生徒にとって「落ち着く場所」として定着しているため心のよりどころになっています。
☆生徒に対してすぐくていねいな対応で学ぶことが多いと感じた。
☆生徒に寄り添って支援していただき、子供たちが安心して過ごせる場所になっていると思います。
☆近年、生徒の悩みの多様化・複雑化もあり、支援員の方々に大変ご苦勞をおかけしている。本校の不登校生の状態も様々であり対応に苦慮する。学校外の支援員として地域の民間団体・教育支援センターなど受入も充実してきた。今後学校における支援として社会的自立に向けた学びの保証も必要と考える。支援員の方、学校とさらに連携を深める対応を図りたい。

② 支援員についてのアンケートへの回答結果(児童生徒用)

1: 支援員が来ることについて【回答数:32名】※うち無回答1、複数回答1(①②両方選択)			
① とてもよかった 【28】	② まあまあよかった 【4】	③ よくなかった 【0】	④ まったくよくなかった 【0】

2: 支援員が来てよかったことや悪かったこと、感想などがあれば自由に書いてください

※一部抜粋して掲載しています。○の数字は質問1の回答番号。原文ママ

【中学校】

① 支援員さんと話せて楽しい時間でした。

① 毎日、みんなの事を気にかけてくれたので、悩み事などを気軽に話すことができました。優しく接してくれたおかげで何か事あるごとに話したい!と思えるほど話しやすい人たちばかりで学校に来る回数が増えたりといいことばかりでした。

① 話しかけてくれる。優しい。

① 色々お話できた。分からない問題を教えてくれた。一緒に遊んだことがとても良かったです。とても楽しかったです。

① 支援員さんと話をすることが楽しかったです。優しく話しかけてくれて、とても過ごしやすかったです。

① お話をしてくれたのがとても楽しかったです。相談にものってくださったので気持ちが楽になったことがあります。

① 支援員の方が来てくださったおかげで、学校に対しての抵抗心が減り、毎日ここに来られるようになりました。また沢山話すことで、コミュニケーションのとり方が以前よりスムーズになれて、高校に向けての備えとしては良かったと思います。

① 支援員さんが来たことで支援員さんとも仲良くなったり色々な方と仲を深めたり、楽しい思い出がいっぱいです。

① 色々、話を聞いてくれたり、一緒になって考えてくれたりしたので本当に、支援員が来てよかったと思います。

① 支援員さん達のおかげで学校が楽しくすごせました。話して聞いて気持ちが楽になって感謝しています。

① 他の人ともはなせるようになった。

① 普通に良かった。 / ① とてもよかった。 / ① 面白かった。 / ① いろいろな話ができてうれしかった。

① 学校に来やすくなった。長い時間学校に居ることができた。 / ① 楽にすごせた。

①② 毎日楽しかったです。ありがとうございました。

② 勉強を教えてもらったことがよかった。

【小学校】

① たのしかった / ① あそんだことがたのしかた / ① たのしかったです。 / ① おえかきたのしかたよ。

① 支援員が来てくれたおかげでいつも楽しい時間をすごすことができました。いっしょにあそんでくれて、ありがとうございました。

① 支援員さんが来ることで別室が楽しくなってよりよい別室にしたいです。 / ① おにごっこ

① 鬼ごっこしてくれてありがとうございました

① 先生といっしょにあそぶのがすごくたのしかった。

① なんかあんしんした。よこにいてくれたり、あそんだりしてくれたことが、うれしかったです。らいねんもきてくれたらうれしいなー。

② ●●(支援員の名前)がうざかた。 / ② たのしかった

無回答 せんせいとせんそうおしてたのしかた

Ⅲ 「校内教育支援センター支援員研修プログラム開発事業」

1)目的

今後長崎県においても設置促進が予測される校内教育支援センターにおいて重要な役割を持つ支援員が、子どもにとって安心・安全な存在となるよう、また、支援員本人も安心して子どもとの関わりに向かえるように、これまでの実践を活かして研修プログラムを開発し、必要に応じて使用できるようにする。

2)内容

プログラムはテーマに沿った“オンデマンド動画”を5本作成した。今後広がりを見せる校内教育支援センター支援員（指導員）の事前研修に活用できるよう準備。自団体だけでなく、支援員配置を実施する自治体、民間団体、個人からの申し込みを受け付ける予定。受講は有料とする。

3)実施スケジュール

日にち	実施内容
8月29日（木）	第1回研修プログラム開発ミーティング
9月13日（金）	講師候補への事業説明【オンライン】
9月19日（木）	第2回研修プログラム開発ミーティング
10月22日（火）	講師候補への事業説明【電話】
10月28日（月）	講師候補への事業説明【オンライン】
11月26日（火）	講師候補への事業説明【オンライン】
2025年	
1月7日（火）	校内教育支援センター支援員研修動画撮影 テーマ：「いじめに関する基礎知識」 講師：特定非営利活動法人 ストップいじめ!ナビ 副代表 須永 祐慈 さん
1月9日（木）	校内教育支援センター支援員研修動画撮影 テーマ：「依存症専門外来から見た十代における市販薬使用症の実態と治療上の課題」 講師：国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存 研究部 部長 同センター病院 薬物依存症センター センター長 松本 俊彦 さん
1月14日（火）	校内教育支援センター支援員研修動画撮影 テーマ：「インターネットと子どもの人権」 講師：フリーライター 渋谷 哲也 さん
1月15日（水）	校内教育支援センター支援員研修動画撮影 テーマ：「子どものセーフガーディング」 講師：公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 子どものセーフガーディング・スペシャリスト 金谷 直子 さん
1月19日（日）	校内教育支援センター支援員研修動画撮影 テーマ：「不登校の本質から見た校内別室の意義と役割」 講師：神戸大学名誉教授 広木 克行 さん

4)実施内容

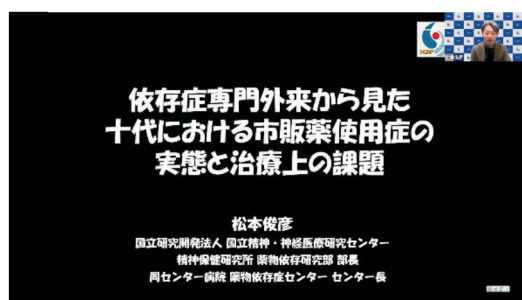


「いじめに関する基礎知識」

講師:特定非営利活動法人 ストップいじめ!ナビ 副代表
須永 祐慈 さん

「依存症専門外来から見た十代における市販薬使用症の実態と治療上の課題」

講師:国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
精神保健研究所薬物依存研究部 部長
同センター病院 薬物依存症センター センター長
松本 俊彦 さん



「インターネットと子どもの人権」

講師:フリーライター
渋井 哲也 さん

「子どものセーフガーディング」

講師:公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
子どものセーフガーディング・スペシャリスト
金谷 直子 さん



「不登校の本質から見た校内別室の意義と役割」

講師:神戸大学名誉教授
広木 克行 さん

IV 「校内教育支援センタープロモーション動画制作事業」

1)目的

今後実施される校内教育支援センター設置促進に向け、校内教育支援センターの果たす役割などをこれまでの実践からまとめ、動画化する。

2)内容

校内教育支援センターが利用する子どもにとっての安心・安全な場所になるためには、ハラスメント行為は当然として、“子どもの身体や私物に触れる時や子どもが思う家庭や学校への改善点を対象に伝える際には子ども自身に許可をもらうこと”や、“子どもとプライベートで連絡を取る手段を交換しない、その機会を持たない”などの権利侵害を防ぐ必要があり、運営する学校や勤務する支援員がケア【休息や回復、安心感の醸成】と権利保障【子どもの意見・意思の尊重、秘密保持】の視点を持つことが重要となる。そのためには校内教育支援センターの役割に関わる大人たちが理解することが必要である。

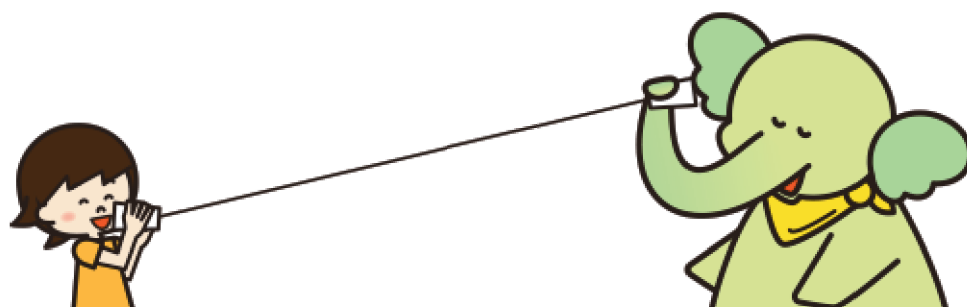
この事業で制作したプロモーション動画は、2023年度に長崎県に対して行った3つの提言を中心に、これまでの実践で大切にしてきたこと、学んだことをまとめた他、派遣先学校や長崎市別室支援員のインタビューも入った内容となった。

動画制作は企業や行政の影響を受けにくい独立性を担保しつつ、20年以上に渡って社会課題の共有・克服に向けて市民と一緒に声をあげてきた認定 NPO 法人 OurPlanet-TV に委託。これまで人権や困難を抱える子どもたちにも焦点を当てた動画制作をしているため、意見もいただきつつ取り組んだ。

長崎県教委を通じて、各市町教委から各学校へ届け、先生方ひとりひとりに見てもらえるように調整中。

3)実施スケジュール

日にち	実施内容
4月10日(水)	今年度事業に関するミーティング・ロードマップ作り【認定 NPO 法人アカツキ様】
5月22日(水)	プロモーション動画制作ミーティング【松原明様】
6月5日(水)	プロモーション動画制作ミーティング【OurplanetTV 様】
6月8日(土)	プロモーション動画制作ミーティング【広木克行様】
7月1日(月)	OurplanetTV 事前視察 実践先学校(小・中)
7月2日(火)	OurplanetTV 事前視察 実践先学校(小)、長崎県教委、長崎市教委
8月28日(水)	プロモーション動画制作ミーティング【全体】
8月29日(木)	プロモーション動画制作ミーティング【若林徹様】
12月5日(木)	プロモーション動画撮影
12月6日(金)	プロモーション動画撮影



4)実施内容

子どもたちの育ちを支える ～長崎・校内別室支援の取り組み～



2023年度に長崎県に対して行った3つの提言を中心に、これまでの実践で大切にしてきたこと、学んだことをまとめた他、派遣先学校や 長崎市別室支援員のインタビューも入った内容。

長崎県教委を通じて、各市町教委から各学校へ届け、先生方ひとりひとりに見てもらえるように調整中。

V 「事業終了報告会開催事業」

1)目的

事業実施の成果などの報告を多くの方に知ってもらうよう実施した。

2)内容

昨年度と同様に、報告会を録画撮影し、編集したうえで当法人の YouTube チャンネルで公開する。年度末は対面形式でのイベントを呼び掛けても、参加対象としたい学校の先生方や教育委員会など関係機関の担当者も忙しく参加が難しいということを考え、動画公開後であればいつでも誰でも見られる形で実施することにより、対象者を含むこの事業に関心を持っている多くの方々へ確実に届けることを目指した。

3)実施スケジュール

日にち	実施内容
2025年 3月16日(日)	令和6年度社会福祉振興助成事業報告会録画撮影 場所:長崎市市民活動センター「ランタナ」会議室(〒850-0022 長崎市馬町 21-1)

4)実施内容

撮影は当団体事務局の他、事業モニタリングを委託している認定 NPO 法人アカツキ様にも来ていただき、対談形式で事業について深める時間も作った。

前半はスライドを使用しながら今年度取り組んだ3つの事業を中心に報告した。報告の後には「4年間の取り組みから見えたこと～これから校内教育支援センターを設置・拡充していく皆様へ～」と題し、短い実践期間ではあるものの、その中で得た学びを報告した。内容は主に今年度から実施されている行政主導の校内別室支援の支援員との協議で出た疑問をキーワードに、なぜそのような疑問が生まれるのかという課題背景から、当法人の実践ではどのようにその課題をクリアしているかというものの。

後半は認定 NPO 法人アカツキの永田賢介様に質問をしていただきながら、前半の報告を聞く中でもう少し踏み込んで聞きたい内容などを対談形式で報告した。





NPO 法人 子どもの権利オンブズパーソンながさき
子どもが安心できる校内教育支援センター設置及び促進を目指す事業報告書
2025年3月発行

編集・発行／NPO 法人子どもの権利オンブズパーソンながさき
(代表理事 古豊慶彦)

【法人所在地】

〒850-0057 長崎県長崎市大黒町4-26-303 (NPO 法人長崎県子ども劇場連絡会内)

TEL:095-825-6151

ホームページ:<https://komb-nagasaki.sakura.ne.jp/>

メールアドレス:komb.nagasaki@gmail.com



ホームページ QR コード

相談専用電話:080-3187-9156

相談時間:水曜日 11 時～19 時 木曜日 18 時～21 時 土曜日 14 時～18 時

※上記時間のみ相談電話がつながります

※祝祭日、年末年始などをのぞきます